

平成30年5月22日

須玉ふれあい館

北杜市環境保全基金 活用事業報告会

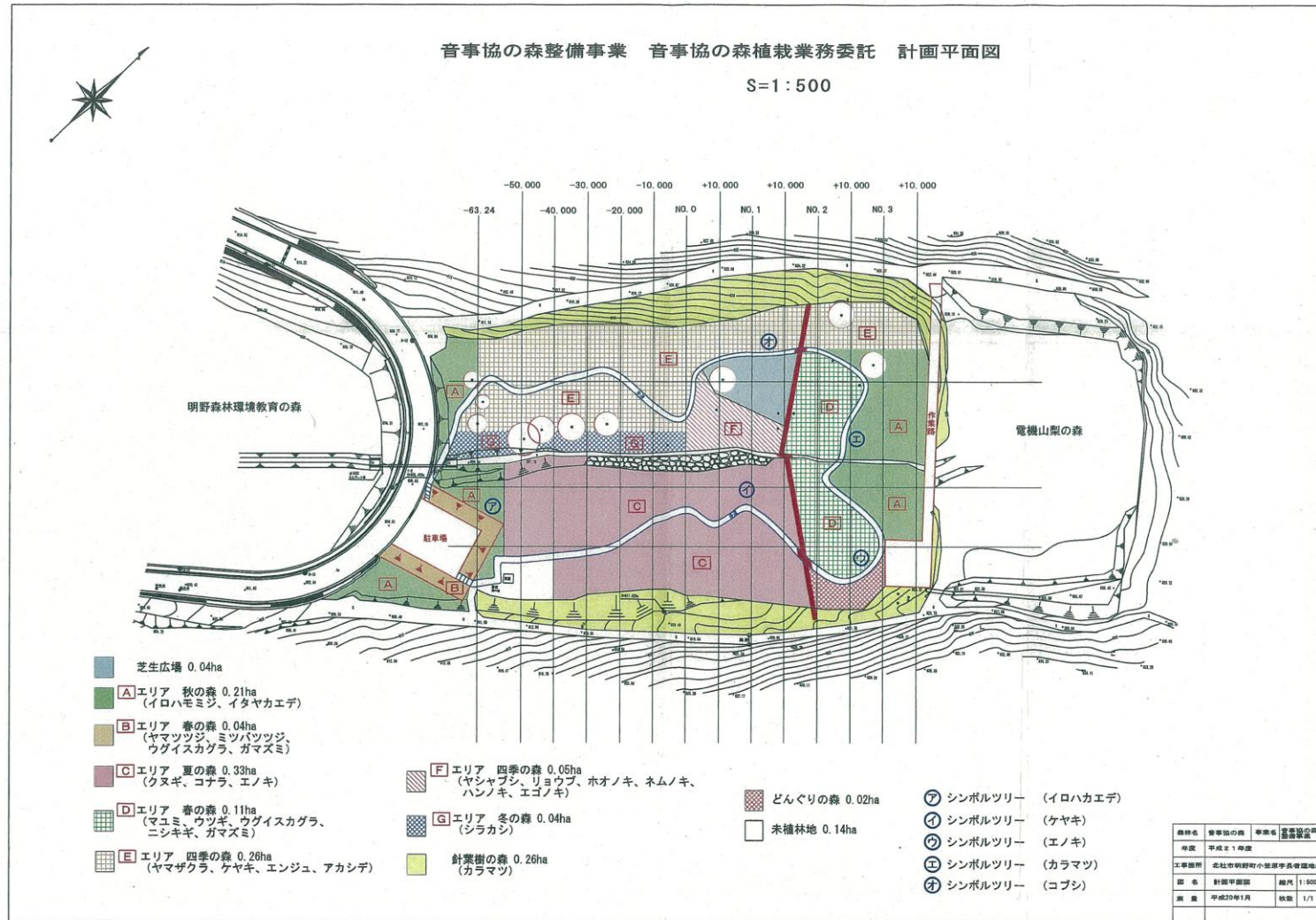
林 政 課

はじめに、

「北杜 音事協の森」 整備事業

- ▶ 「北杜 音事協の森」は、日本音楽事業者協会が地球温暖化防止を目的として、平成20年度から整備を行い、10年目となりました。
- ▶ 「北杜 音事協の森」は音事協が取り組む植樹プロジェクト **全国初の開設地**です。市と音事協の“森づくり”に対する思いが合致し、開設が実現しました。
- ▶ 本市では、「音事協の森」を森林整備の拠点と位置づけて、郷土樹種である広葉樹を中心に植林を行い、訪れた人々が季節ごとの変化を楽しみ、親しみを持てる森を育成し、また、次世代を担う子どもたちが学ぶ森として活用できるよう造林事業を展開しています。

音事協の森の将来計画にむかって毎年補植や整備を行っています。



「北杜 音事協の森」のはじまり



写真の子達は、植栽した木々と共に、成長しています。



平成**20**年度 記念植樹の様子

毎年、記念植樹を開催し、 森林の大切さをPRしています。

平成23年度



平成25年度



平成26年度



毎年、記念植樹を開催し、
森林の大切さをPRしています。

平成27年度



平成28年度



平成29年度



平成29年度は10周年記念となり、音事協2号地の千葉県君津市との友好植樹も行いました

下刈り、補植、間伐、歩道整備など、地域の方と力を合わせ、基金を活用しながら今後も、大切に育てて行きたいと思えます。



つぎに、

「市有林」整備事業

- ▶ 「明野森林環境教育の森」「音事協の森」「電機山梨の森」の北側に位置する2.37haの山林です。
- ▶ 上記の3つの森と一体的に整備することで、森林環境教育・保健休養の場としての価値を、さらに高めていきたいと実施しています。
- ▶ また、試験的に少花粉スギを植栽したり、松くい虫抵抗性アカマツの植栽、獣害防除施設を設置することで、林業技術を広く市民に周知を図るため管理しています。
今年度は、獣害防除ネットを設置し防獣効果の検証も行っています。

下刈り作業



補植作業



忌避材作業



つぎに、

天然記念物保護環境整備事業

(八ヶ岳のミヤマシロチョウの保護)

八ヶ岳南麓に生息する「ミヤマシロチョウ」は、環境省のレッドリストで、絶滅危惧種に指定されており、平成28年度に「ミヤマシロチョウ保全対策検討会員」による調査の結果、生息状況の確認ができず、絶滅の危機に瀕しています。

この原因は、長の幼虫の餌となる植物（ヒロハヘビノボウズ）や成虫の蜜となる植物（クガイソウ、マツムシソウ）が、ニホンジカに食べられてしまう可能性が高いとされています。

ニホンジカによる、被害は農産物以外の生態系に及んできています。

この植物を保護するため、ニホンジカの食害を防ぐ、電気柵の設置を行いました。



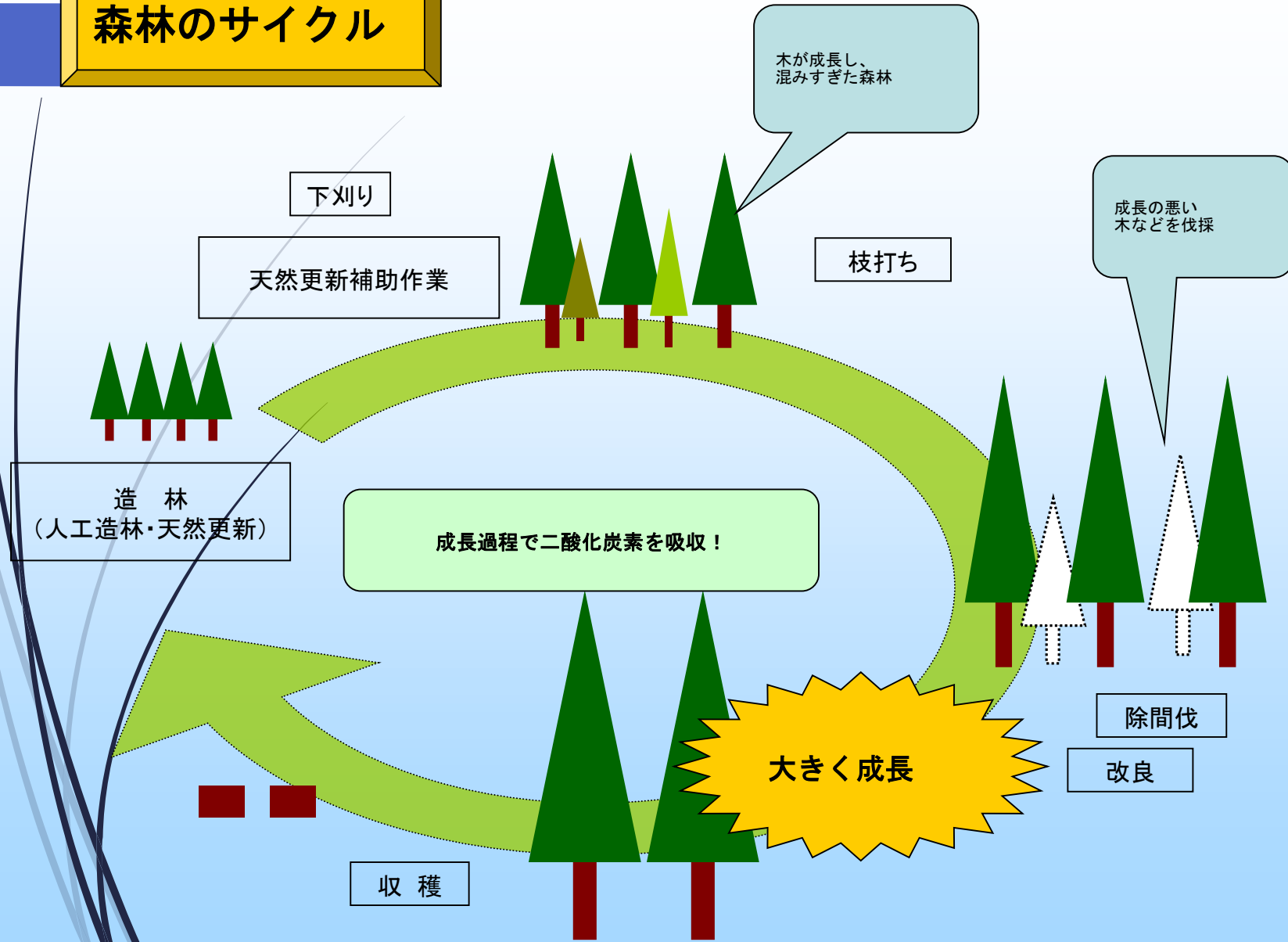
ミヤマシロチョウの保護に努めていきます。

最後に、

「里山整備事業」

- ▶ 水源涵養、国土保全、生物多様性保全など、私たちに「安心」や「安らぎ」を与えてくれる豊かな森林を後世に受け継ぐため、植林や間伐など、森林施業を行う方へ補助金の交付を行っています。
- ▶ 対象は市内の民有林で、1施業地の面積は1,000m²以上です。補助率は、事業費の95%です。
- ▶ 山林所有者の「**森林整備をしたい!**」という要望に、施業者・市職員が立会い、所有者の次世代へ繋ぐ森づくりへの思いに「環境保全基金」を活用しています。

森林のサイクル



木材の利用を目的とする森林では、「造林→保育→収穫→再造林」というサイクルを繰り返していきます。

「森林整備」とは、健全な森林を育成するため、山の手入れを行うことです。伐採後放置したり、苗木を植えただけでは、豊かな森林とはなりません。

豊かな森林を次世代に残すためには、伐採後の手入れが極めて重要です。

里山の雑木林であっても、不用木や巻き付いたツルの除去、切り株から出た芽を間引く芽かき（萌芽整理）などを行うことにより、積極的に健全な森林づくりを行うことができます。

里山整備事業の植林・下刈り作業



施業後の完成検査状況

里山整備事業の間伐作業



植林した面積は、毎年増えています！！

平成29年度の施業面積は

138.84 ha

このうち、植林は
91.1ha



延べ面積（**H17～H29**）
約**2,020ha**

課題もあります…。

- ▶ 小規模な森林所有者が多く、なかなか面的な広がりのある団地形成が出来ないため、コストが掛かりあきらめている方もいる。
95%という、高率の補助事業とはいえ、個人負担は生じます。

→ 林業事業体と協力（所有者の調査、地区の合意形成など）し、効率的な施業が出来る規模、面積を確保し、山林所有者にも還元されるよう取り組んで行きたい。

- ▶ アカマツの被害木の急速な広まりにより、代々受け継がれてきた森林資源が無駄になってしまっている。山は倒木の危険があるだけで、何の価値もないとあきらめている方が多い。

→ 被害木の目立ち始めた地域の方には、積極的な樹種転換を呼びかけています。上記にも示したとおり、自分だけやっても・・・と思う方もいますが、隣地の方へ市から呼びかけ、効率的な規模を確保することで、利益を得て、次の山づくりに繋げて行きたい。



今ある北杜市の森林は、先人が大切に守り、受け継いできた地域の財産です。

私達にも、次世代に豊かな自然環境を受け継いでいく使命が課せられています。

森を育てる事は、今、私達が感じている「安心」や「安らぎ」を、未来に生きる子供達へ届けることだと思います。

北杜市環境保全基金は地域の未来を大切に思う気持ちから設立されました。その思いを里山整備事業を通じて、これからも受け継いで行きたいと思っています。



ご静聴ありがとうございました。